様式第１号（第１０条関係）

2023 年度業務実績報告書

提出日　2024 年　1 月 10 日

１．職名・氏名　教授・兼田　淳史

２．学位　博士（理学）、専門分野　沿岸海洋学　、授与機関　愛媛大学、授与年　平成 15 年

３．教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 大気・海洋学概論（2 単位）　15 コマのうち 5 コマ　1 年次
②内容・ねらい 大気や海の流れの性質や相互作用、海洋の物質循環、生態系の特徴など、地球環境を生み出す大気科学や海洋学について概説する。また、地球環境の観測方法や、顕在化した環境問題および解決に向けた取り組みについて講述する
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 2 名の教員で分担しており、後半を担当した。高校時代に物理学を学んでいない学生も海洋学に興味を持ってもらえるように動画をしたり、Google Classroom を利用した小テストで理解度チェックを行いながら講義を進めた。
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 海と暮らし（1 単位）15 コマのうち 1 コマ　1 年次
②内容・ねらい 海洋生物資源、それらを取りまく環境、水産資源の管理について福井県の現状なども踏まえながら様々なトピックスを紹介する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 海の予報の 1 コマを担当した。海洋学、水産海洋学を社会に実装するオペレーショナル海洋学（実用海洋学）は、教養科目である当科目の内容にふさわしいと考え福井県の実例を示しながら講義を行った。
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 沿岸海洋学（2 単位）　2 年次
②内容・ねらい 　沿岸域で発生する潮汐・潮流、密度流、吹送流などの諸現象や、海水の特性および成層について講義した。また、外洋の物理現象が沿岸海域に与える影響や、沿岸域の環境問題との関連性について、新しい知見も取り入れて説明を行った。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 教室では理解しにくい諸現象の特徴をイメージできるように動画や配布物を多くした。また、物理を受講していない学生も多いため、レポートを課して内容を理解するための準備や理解度を確認しながら進めた。
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 山川里海連関学（2 単位）　2 年次（15 コマのうち 5 コマ）

②内容・ねらい
「水の循環・流れ」をテーマにして山、川、里、海の関わりについて説明した。山のもつ役割、川と海とのつながりや、その流れが物質循環に対して果たしている役割、沿岸環境問題との関連性ついて、具体的な事例を引き合いにだしながら解説した。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
扱っているテーマが新しい学問領域であるため、できるだけ多くの資料を収集して講義に望んだ。また、小学校で利用している教材をもとに議論を行うなど社会との関連性について様々な角度から考察できる能力が養われるように工夫した。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
科学英語Ⅱ（2 単位）　3 年次生（15 コマのうち、7 コマ）

②内容・ねらい
海洋学および海洋環境工学の分野の英語で書かれた書籍や文献をテキストとし、適宜解説を加えながら講読させ、内容を理解させる。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
研究室に分属された 3 年次生に、これから進める卒業論文の作成へ向けたトレーニングの要素も含めて英語の文献に接してもらった。講義は英訳のみではなく、論文の種類の説明やゼミでの論文紹介の仕方も含めて講義を行った。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
海洋環境工学実習（1 単位）　3 年次生
30 コマのうち乗船実習、プログラミング実習を担当（2/3）

②内容・ねらい
小浜湾における乗船実習を主体に海洋観測におけるデータの取得方法を理解し、データの処理方法について学ぶ。乗船実習、プログラミング実習を担当した。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
全員が観測機器を操作してデータを取得すること、そして取得したデータが解析されるまでの流れを理解できるように、プログラミング演習では取得したデータを利用して小浜湾の水温、塩分の断面図を作成するようにした。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
専攻演習（2 単位）　4 年次生

②内容・ねらい
卒業論文を実施する上で、必用となる専門分野に関連する専門書や学術論文を紹介あるいは講読し、議論を行うことによって研究の背景や内容の理解を深める。

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫
卒業論文に関わる観測技術やプログラミングを指導し、卒業論文を実施できるレベルまで高める。また，卒業論文を実施する専門分野に関連する文献を講読、その内容をゼミ形式で議論することを行った。

【ゲストスピーカー　1 人】

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
卒業論文（2 単位）　4 年次生（阿部、松岡の担当）

②内容・ねらい
海洋学、水産海洋学に関連する内容の観測およびデータ解析を行い、現象の実態解明や海況情報の開発を行う。学生との討論や卒業論文の作成、発表会を通じて、専門分野の理解を深めるとともに、問題解決能力やコミュニケーションの能力を高める。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
卒業論文に関わる観測技術やプログラミングを指導し、卒業論文を実施できるレベルまで高める。また，卒業論文を実施する専門分野に関連する文献を講読、その内容をゼミ形式で議論することを行った。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
海洋生態工学（2 単位）　修士課程

②内容・ねらい
海洋学、海洋工学、海洋生態工学に関連する内容について、研究室の 3 教員で分担して講義は進められた。気候変動が漁場環境に与える影響について講義を行った。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
漁場を取り巻く海洋環境の諸特性を解説するとともに、気象庁が報告書として公開されている環境データを学生とともに閲覧しながら講義を行った。

①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
海洋生態環境学専攻演習Ⅱ（2 単位）　修士課程

②内容・ねらい
海洋生態環境工学分野におけるゼミの実施

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
研究内容に関連する教科書の輪読や、論文紹介を実施した。

(2)その他の教育活動

内容
・西津小学校での講義でコメント（2023 年 11 月）
・慶應高校、若狭高校との海ごみ対策会議(2023 年 11 月)

４．研究業績

(1)研究業績の公表

① 著書

【0 本】

②学術論文（査読あり）

Seasonal variation in the community distribution of protists off Wakasa Bay, Southern Sea of Japan, 共著者有り，Kataoka, Takafumi, Sugimoto, Ryo, Kaneda, Atsushi, Yamaguchi, Haruyo, Rihei, Takahito, Yamashita, Shinya, Continental Shelf Research, Volume 253, article id. 104898. (2023, January)

【1 本】

③その他論文（査読なし）

【0 本】

④学会発表等

*1. 岡田優暉斗，兼田淳史・大谷徹也・渡慶次力・爲國翔太，但馬沖ホタルイカ漁場における物理環境の変動特性，日本海洋学会京都大会，2023 年 9 月.

*2. 兼田淳史・岡田優暉斗・大谷徹也・渡慶次力・爲國　翔太，但馬沖ホタルイカ漁場の海況と漁場形成の関係，2023 年度水産海洋学会，2023 年 11 月.

3. 山田拓海，兼田淳史，岩崎俊祐，福井県沿岸における定置網漁場の物理環境の経年変化，2023 年度若狭湾研究集会，九州大学応用力学研究所共同利用、2023 年 12 月.

4. 福智隆史，兼田淳史，岩崎俊祐，若狭湾における近年の水温塩分構造について，2020 年冬季と 2022 年夏季と平年時の比較，2023 年度若狭湾研究集会，九州大学応用力学研究所共同利用、2023 年 12 月.

【4 件】

⑤その他の公表実績

*1. 兼田淳史，福井県立大学海洋生物資源学部と私の研究室の紹介，海洋調査（一般社団法人海洋調査境界）no152，2023 年 4 月

*2. 兼田淳史，保護礁機能低下要因の解明に係る流況解析，福井県委託研究報告書，1-10，2023 年 3 月.

【2 本】

(2)科研費等の競争的資金獲得実績

【学外】3 件

（1）科学研究費基盤研究（基盤 C）継続、（代表 渡慶次力）「日本海における沿岸資源漁獲量の長期的な時空間変動の特性と海洋環境との関係解明」300 千円

（2）科学研究費基盤研究（基盤 B）分担（代表，郭新宇）「境界流と沿岸域の相対位置に着目した外洋から沿岸への栄養塩供給に関する研究」1,200 千円

（3）九州大学応用力学研究所　令和 5 年度共同利用研究　，分担

【学内】2 件

（1）　令和 5 年度　戦略的課題研究推進支援　代表，　820 千円
「日本海中部海域の低次生物生産のモニタリングと数値モデリングに関する研究」

（2）　令和 5 年度　個人研究推進事業　代表，　1000 千円
「生物多様性保全の重要海域である若狭湾とその沖合の生物生産機構と生態系構造」

(3)特許等取得

(4)学会活動等
・日本海洋学会沿岸海洋研究　地区代表委員 ・日本海洋学会　沿岸海洋研究　編集委員
・論文査読　2 件

５．地域・社会貢献活動

①　国・地方公共団体等の委員会・審議会 （1）　福井県海岸漂着物対策推進協議会（2024 年度）
②国・地方公共団体等の調査受託等 （1）福井県水産試験場受託研究「令和 5 年度スマート水産業による「越前がに」に代表される底魚資源維持増大事業の委託事業について」
③公益性の強い NPO･NGO 法人への参加
④兼業規程で業務と見なされる範囲内での企業等での活動
⑤学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 ・愛媛大学沿岸環境科学研究センター客員研究員
⑥公開講座、オープンカレッジ、社会人・高校生向けの講座の開講（タイトル、開催場所、開催日時） ・福井県立大学　公開講座　「海洋生物資源学科の講義を体験してみよう」 ～ようこそアクアサイエンスの世界へ！～、　6 月 27 日(火)　20:00～21:00
⑦その他 ・第 78 回日本海海洋調査技術連絡会　福井県立大学担当者（2023 年 11 月） ・令和 5 年度若狭湾協同調査連絡回　福井県立大学担当者（2023 年 11 月、メール会議開催） ・若狭高校探求協働会議　課題研究に対するアドバイザー（2023 年 6 月）

６．大学運営への参画

(1)補職
・海洋生物資源学科　学科長（2023 年度）
(2)委員会・チーム活動
＜全学＞ ・水産増養殖の新学科設置プロジェクトチーム(2023 年度) ・大学案内ワーキングチーム（2023 年度） ・総合知・情報センター（仮称）委員会(2023 年度) ＜海洋生物資源学部＞ ・2020 年度入学生担任 ・学部予算委員会 ・学部カリキュラム WG ・高大連携担当 ・教員評価委員 ・年報担当 ＜海洋生物資源学科＞ ・学科将来計画委員会 ・学科カリキュラム WG ・3 年次生担任 ・編入学・転学部担当 ・JABEE 委員会 ・学科予算担当 ・学科備品更新配分担当
(3)学内行事への参加
・2023 年度大学案内　海洋生物資源学科学科紹介（オンデマンド動画説明） ・2023 年度　オープンキャンパス（8 月、永平寺キャンパス担当） ・ハラスメント等人権問題に関する委員会主催の講習会参加　（5 月 15 日）
(4)その他、自発的活動など
・福井沿岸の海況情報 web サイトを運営・管理（2014 年～）